

Ver.2.0

項目		説明
試料・情報の 利用目的 及び 利用方法	研究課題名	EGFR 遺伝子変異陽性 pN1-2 肺癌術後の予後に関するシグナル経路・分子の解明
	研究目的	本研究の目的は肺癌根治切除後の病理結果でリンパ節転移を認めた EGFR exon 21L858R 点突然変異陽性肺癌患者さんの術後の予後を改善する新たな治療法を開発することです。リンパ節転移を伴う EGFR exon 21L858R 点突然変異陽性肺癌は手術で取り除いたとしても再発しやすいことが言われておりますが、なぜ再発しやすいかは未だわかっていません。本研究では EGFR exon 21L858R 点突然変異陽性肺癌と同じ EGFR 遺伝子変異であっても予後が良いと言われている EGFR exon 19 欠失変異陽性肺癌の細胞シグナル経路を、逆相蛋白質アレイ (Reverse Phase Protein Array: RPPA) という癌増殖に関連するタンパク質を解析する機器を用いてそれぞれ解析します。両 EGFR 遺伝子変異陽性肺癌患者さんのタンパク解析比較を行うことで、EGFR exon 21L858R 点突然変異陽性肺癌の癌増殖に関するメカニズムを見出し、新たな治療法の開発のための基礎的知見を得たいと思います。この研究において癌増殖に関連するタンパクとして知られている RBM10 のタンパク解析も行います。さらに両 EGFR 遺伝子変異肺癌の RBM10 に関する遺伝子変異の有無の解析も行います。
	研究対象者	2002 年 1 月から 2020 年 12 月に当センター呼吸器外科科にて原発性肺癌に対して手術を行った患者さんです。そのうち術後病理結果でリンパ節転移療を受けた患者さんが対象となります。
	研究期間	西 暦 2 0 2 2 年 1 月 2 4 日 ~ 西 暦 2 0 3 1 年 3 月 3 1 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		☐ 血液 ☐ だ液 ☒ 臨床検査データ ☒ 病理組織 ☐ 排泄物 (尿・便) ☐ その他 (記載して下さい) ☐ 毛髪 ☐ 診療記録
試料・情報の管理についての責任者	当センター研究責任者	伊坂哲哉
試料・情報を利用する者の範囲	当センターでの実施診療科/部局等	呼吸器外科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし